続 隠れ水俣病

今後の焦点を聞く

<6>

語る人
水俣病訴訟弁護団事務局長
千場茂勝弁護士

因果関係に重点

堅い訴訟派の団結

―六月二十一日の二次提訴で未認定の患者さんの家族が提訴して、水俣病裁判に新しい問題が加わったようですが。

千場　山田満歳さんの場合でしょう。そのとおりです。これまでわたしたちはチッソ側の過失にしぼって、もちろん時効や見舞い金契約の問題もあるし、アチラさんは見舞い金に力を入れてるようだけど、わたしたちは過失の立証が中心だと思ってやってきたわけですよ。ところが、こんどは因果関係というか、水俣病であるかどうかが、ますポイントになるわけですからね。

―朝木地裁では山田さんだけは別に審理する方針のようです。森鷹裁判長は水俣病であるかどうかの争点のために、これまでの原告の裁判がおくれてはいけないと言ってましたが。

千場　わたしたちは併合を希望したんですが、裁判所がそういわれればやむをえません。それに全く別で一からやり直しというわけじゃないでしょうから。

―結局裁判は、認定患者と未認定患者の二つの系列に分かれるわけですね。

死者認定の必要

千場　そうなるでしょうね。県民会議医師団の話でも、すでに死亡した人で、審査会がこれまで通り認定の対象にしないなら裁判したいという人が多少おられるようだから、今後も山田さんのようなケースが出ると思います。（声を強めて）とにかく死者を認定しないというのは、被害者救済の立場からみるとけしからんですよ。わたしたちは裁判で、公害被害者救済法の不備をついていくつもりです。県が認定しないというなら、裁判で認めさせる以外にないんですから。

―現在元厚生大臣の西田栄一氏の尋問が続いていますが、今後の口頭弁論の展開は。

千場　こちらの尋問のあと、被告側の反対尋問があり、これまでこっちが明らかにしたところを"カベヌリ"で隠してしまうでしょう。だからこっちはもう一度、それをこわす必要があります。再主尋問は当然やりますよ。

48年中には結審

千場　一応の目安として、四十八年中に結審ということを考えています。患者さんのことを考えると、一日も早い方がいいんですがね。ただ不法行為の立証責任はこっちにあるので、あわてては損なのです。

―時効の問題ですが、チッソ側は水俣病の認定を受けた時から三年以上たっているので、と時効を主張しているが。

千場　わたしたちは四十三年九月の公害認定をあくまで起点と考えています。だからこれは問題はない。ただ時効の中に除斥期間というのがある。これは二十年で、どんなことをしても延ばせない。ということは、二十六年六月以前に死んだ人は多メということです。

―今後水俣病の掘り起こしをして、死亡患者を見つけても死後二十年以上たっていると裁判できないことになりますね。

「48年末には結審にこぎつけたい」と語る千場弁護士

千場　そうなんですよ。ひとつの力べですね。

―会社側の訴訟派切りくずしが続いているということですが、患者さんたちの結束は。

千場　裁判でも切りくずしのことを追及したんだが、むこうはやってないといっている。会社の人間が患者さんの家を回ってるのに…。でも結束は堅い。まず大丈夫です。患者さんたち自身、援助にたよらず生活のためにいろんなことをやろうとしてますからね。それに二次提訴で、新しい仲間がふえたことも励みになってるようですね。

―弁護団は数としては多いが、実際に裁判を進めている人は限られているようですね。

千場　現在七人です。結局こんなにむずかしい裁判を引き受けようという人はそんなにおらんのですよ。しかし七人のチームワークはいいですよ。ただ来春は若い人を見つけて入ってもらうつもりです。

頭が痛い資金不足

―弁護団は資金面が苦しいということですが。

千場　そうなんですよ。これが一番頭が痛いです。今も五十万ばかり借りてるんですが…。

―最近総評の中に水俣病弁護団資金の会というものができて、毎月九万ばかり出してくれることになりました。共産党の人たちらも月に五万円援助があります。

―損害賠償額をふやすということですが。

千場　九月までに出さなくちゃならんと思っています。逸失利益にするか慰謝料にするか、まだ決まっていないが、逸失利益は患者さんに不利なので、慰謝料の増額ということになるでしょう。死者に八百万円という今の額は、水俣病の性質からみると低いですよ。

―弁護団に対して、世論におぶさって、法廷の追及が上すべりしているとの批判もありますが。

千場　（むっとしたように）われわれはいま全力投球です。とくに過失立証に入ってからは精いっぱいやってます。八月も六日ばかり泊まり込みで合宿をすることにしているんですよ。とにかく、水俣病は四大公害裁判でも、一番むずかしい。全力をつくしてはいるけど、どんなに一生懸命やっても、初めから批判的な人はそうなんじゃないですか。